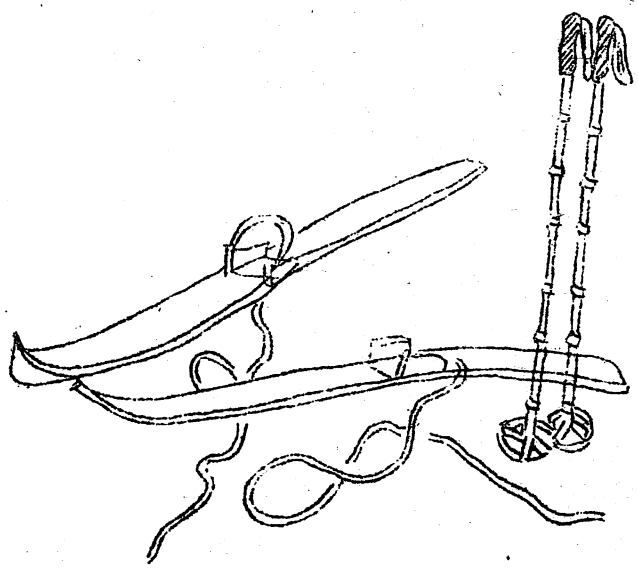
3月18日

1976 春山報告書



信州大学山岳会
伊那・松本山岳部

雨飾・火打スキー山行 3/16～24

八ヶ岳 3/5～8

北鎌～槍 4/3～6

春山報告書

雨飾・火打スキー山行

76.3.16 ～ 3.24

メンバー　L　須貝 知明
(A.3)
福島 渉
(A.4)
村田卓徳
(A.2)

3.16 ◎　松本17:52 ── 中土20:25

国鉄17日スト の為、急遽出発する。中土駅泊り。

3.17 ● ～ ⊗ ～ ◎

中土6:30 タクシー 田中下6:45 ── 小谷温泉9:05 ── 鬼刎滝の橋12:05 ── ブナ尾根1600m地点 13:50

雨による雪崩の危険あり、タクシーは田中下までしか行かない。小谷温泉を過ぎてより、鬼刎滝の橋が見つからずアルバイトを繰り返す。このあたり、5分の一図は簡略化されている。ブナ尾根1600m地点に3時間近くかかって雪洞を掘る。

3.18 ◎

T.S 6:30 ── 天狗原山 10:50 ── 金山 12:05

妙高をはじめ後日の行程となる山々は一向に近づかない。磨りかけた雪に、ステップも崩れがちだ。裏金山谷の斜面に雪洞を掘った後、スキーの練習をする。

3.19 ⊗

洗殿

3.20 ⊗

洗殿　雨飾を断念する。

3.21 ⊗ ～ ◎ ～ ⊗

T.S 10:45 ── 裏金山 12:30 ── 焼山火口附近 15:10 ── T.S 16:30

ミールをつけて、大陸の低気圧に追われるように出発。すぐに裏金山への斜面で村田が20mばかりかける。焼山の上部岩稜はアイゼンで登り、火口附近に出る。この頃より視界10m程度となり、火打方向へ斜滑降を試みる。偶然行き会った黒い岩の下に雪洞を掘る。

3.22 ◎～①～⊗

T.S 11:20 ――火打山 14:30 ――T.S 15:10

10時前、現在地知れる。新雪なだれの起きそうな斜面を大トラバースして胴抜けに下る。風吹きの為わからなかったが、昨日はすごい急斜面を滑っている。火打はアイゼンで登る。次第に天候悪化し、ふぶいてくる。頂上附近では視界30m。コンパスをたよりに妙高側と思われる尾根を下る。現在地が不明なので、余り下らず雪庇の下に雪洞を掘る。

3.23 ◎～⊗

T.S 7:45 ――火打ピーク附近 9:15

除雪時、入口が3m以上埋っていた。現在地確認の為、火打上部へ移動するも吹雪強まり雪庇の下で待機。しかし好転の兆しなく、その場に雪洞を掘る。長期戦に備えて、夕食メニューにはキをつけず、宿泊さんの残していたビスケットとチョコレートを3人で分ける。5時過ぎ溶かされたスキーを追って宿泊さんが斜面を下って行く。無事後回収。ラジオは向う一週間の予報を絶望的に告げている。

3.24 ⊗～◎～①

T.S 10:05 ――小桜平 13:10 ――赤倉山 14:35 ――妙高高原スキー場 17:30

ESSENを食いつなぐ為に朝から1ースキャロライナの滑りレースなどで空腹を紛らわせていたが、突然の晴れ間に食事もとらず出発する。今を失したらとあせるのだが、ふらつき気味で転倒を繰り返す。高谷池近くになってトップの村田ドーンという音響と共に2m余り陥没する。小桜平には小気味よいミュプールを堪能す。赤倉山からの下りはスキーをアイゼンに変えて慎重に通過する。しかし池ノ平スキー場に続く岩稜には手間取りそうなので妙高高原スキー場に下る。

Leader より

スキー場に下りた時は実にほっとした。やっと下ふできた。これが下ふ時の最初の感想である。

今回の山行は剣北方稜線の冬山山行と同じくらいに苦しめられたような気がする。もっとも3人だけでしかも一年生がいなかったので気は楽であったが。

沈殿が連続するとやはり判断がくるってくるものである。今回はさいわい事故は起こらなかったが今考えてみれば、恐ろしい場面がいくつも浮かんでくる。

一週間程度の山行ではあったが、今回の山行で得られた若干の結果と考察を上げてみる。

1) 海谷、クビキ山域は積雪期ではぼくらの考えている程度以上の積雪量がそれも短時間で降る。

2) 視界がきかない時、稜線が広い場合は、現在の力では正確な方向に進むことができない。これは、今後の課題である。

3) 積雪後の雪面のトラバースはやはりなるべくさけなければならない。焼山のトラバースはやはり間違った判断である。

4) スキー、雪洞の型態はやはり春山のダイゴ味である。山岳部員で春山でスキーを使う傾向が育ってゆくのはうれしいことである。

地獄谷より八ヶ岳へ…… 山行報告

☆期間 …'76 3/5 ～ 3/8

☆メンバー…… L 卵田信人（医2－II） 片山博喜（農1－I）

☆行動概様

▶3/5 ①

松本 ═ 小淵沢 ═ 清里　　清里駅の待合室にてゴロ寝

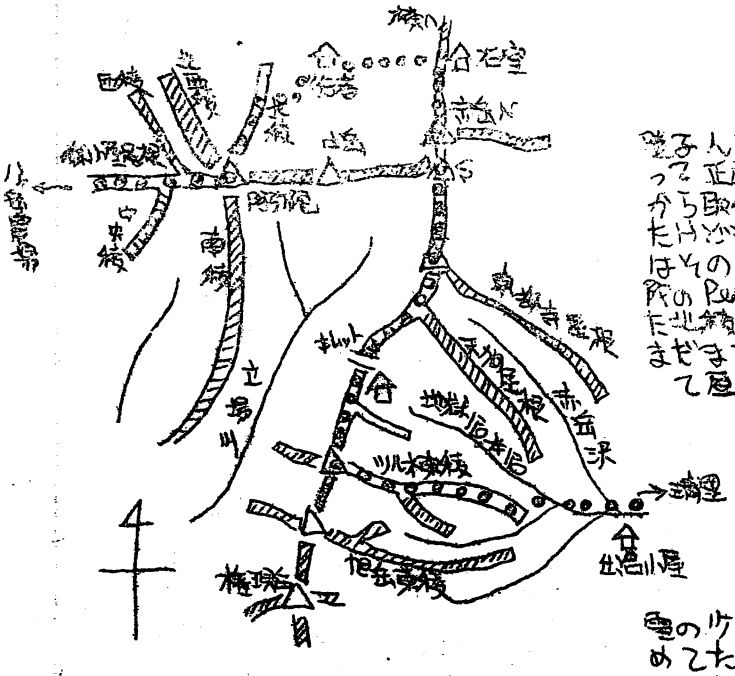
▶3/6 ○

6:00 清里を出る 地獄谷まで気が遠くなりそうな広大なハッの野が広がっている。左手に日遠く南アの甲斐駒、北岳が真白だ。バットレスが実にいい。正面には権現、赤が少ちらばっている。山全体は赤茶けて白地が点々としてて何か秋の山という感じがする。ひたすらに川俣林道を歩く。林道の終わりから荒れたガリー状のとこを下降して河原へ出る。

9:25 赤岳沢出合の小屋に着く。ここには6人程他partyの人がいた。河原から見上げる天狗尾根の大天狗は実に壮観な感じだ。10:00 ツルネ東稜に取り付く。ツルネ東稜は全くの予想外、全然面白くなかった。雪は完全にくさってZえちいだけ。リーダー金ちゃんというもんがなかったら、まっぱど清里に引返したいとこだった。バテバテになって12:45 ツルネに。今日のハッは雪が全然少ない。少ないというより少なすぎる。キレットは完全に裏目が出ていた。ところどころの雪はキックステップで充分なんで思いきってアイゼンはずしてキレットを登る。登りきったとこで再び昼飯。15:10 赤岳頂上に5分短縮く着いた。その頃に雨がぱらぱらきた。予定を消化して松本に帰ることもできたけど、せっかくEssenを持って来たんだから、後2日、ゆっくり山を楽しもうってことにして今日は石室の冬季小屋までとする。石室には社会人と学生でしき party が他にもいた。夕食は1時間くらいかけて楽しそうにEssenの準備をしてる。特に社会人の連中は酒と肴をいためたり、あげく酒までのみだした。僕達は準備しだしてから食い終わるまでほんの15分程。なんせ米とお茶漬けだけだもんね。ハドケて早々と横になった。

▶3/7 ①or◎

夜中から風が強まりどっしょうが降 なんて思いつつともかく6:00ごろおきれろと起き出す。空は雲が多めでどうもパッとしない。それでも石室を7:20後にして地蔵尾根を下る。7:40行動。一休みして阿弥陀北稜に向かう。阿弥陀・中岳のコルへ出る直前を左手から北稜へトラバース。側面の斜面をシンドイ思いをして登って北稜上に出る。ゆっくり休んでから6:40取付く。しばらくはだるい雪稜（50～60m）が続き、その先で左手のブッシュ混じりの雪壁をのぼる。（30m程）そこを登りきるとちょっとしたガッテル状のとこに出た。（ここへは阿弥陀・中岳のコルから容易にトラバースしてくることができる。）ここから先、西岳までは左手の雪壁を



<横岳概図>

登るんだろうけど、見行Point に従って正面の岩を左手巻いたのとから取付く。30mくらいの岩だったけど結局ザイルは使わず、後はそのままなしくずし的に阿弥陀のPointに出た。9:45 期待してた北稜もあっ気ないもんだった。まだまだ時間は早いし、かといって直登するには寒すぎんで、頂上直下の雪渓の前でお茶を沸かしたり、北西稜登ってきた東京稜の人が同志だと阿弥陀の南稜は絶対ケンカしたの時の話ちがや、2人でボケーッと聞きながら雪のない八ヶ岳を横目で眺めてた。11:20 いつまでもこんなことしてるわけにはいかないんでようやっと重い腰あげて御小屋尾根を下りだす。12:00ごろ雪のある適当なとこにツルト張る。こんなだれた山行になったのもみんな雪がすくないせいだ。全く雪のないハッちゃんて空気の抜けたコーラ、クリープのないコーヒーみたいなもんだ。

3/8 ①

10時中震えてた。まず起き抜けにモーニングティーを作る。7:50 出発。うす曇り。時々陽がさす。御小屋尾根は静かに山を楽しむにはすごくいい感じだ。獣の足跡がそこらゆに点々とする。時間があるんで12分に山を味わいつつ下ってく。それでも以外に呆気なく終わってしまう。学林のバス停に出たけど、まだまだ時間がたっぷりあるんで売店のあるバス停まで歩こう、ってことにして2人して歩きだす。今にして思えばそれが誤りの元だった。なんせ5山行の核心はここから始まるダ。悪い予感はしてたんだけど、行けども行けども何もない。単調なアスファルトの道がどこまでも続くだけ。ハッちゃんどんどん遠ざかり茅野の街が近づいてくる。だんだんヤケになって茅野まで歩いてやっか、なんて気にもなってくる。途中 taxi の運ちゃんに呼び止められたけど断固として拒絶。こうなると人間ってのはバカなもんで意地でも茅野の駅まで歩いてやる、って気になってくる。おかげで足中マメだらけ。2ちゃい目にあった。2人ともヨレヨレになってこっち

芳野の駅に着く。（これでもバス使うよりずっと早かったんだド）。ここで、なぜいろいろ分けが先刻の、奥に乗ってた登山者が、まだブラブラしてたんで、淋しかと思い心配いつつ、やっぱりヤクヒなるんで降りて2人でもいつの前を行った来たりしてやる。でもさ、いつまでもこんな自己満足的なことしてるわけにはいかんもんね。適当なとこでやめてコーヒー飲みに行った。もう絶対こんなアホなこと、しないド。

// （のぶひと）

⑧ 北穂高岳四について

今回の山行は雪がケなかったせいもあって非常に魅力のないものになってしまった。しかし北穂高に初めて入った、という点では結構よかったと思ってる。ハッといえば横岳西面というように、西面は比較的人気があるけど、もっともっとこの北穂高岳も見直していいんじゃないか、と思う。初心者にはツルネ東稜、中上級者には天狗尾根、北壁東稜なんかトレーニングにいい。特に北壁東稜は上部は壁がヤセて、かなり緊張もありなかなか手強いうだった。また雪崩に気をつければ滝沢、本谷、梅雨沢などのルンゼ登攀も面白いだろう。ハッといえば、いつも行く、宝伝鉱泉じゃなく、たまには北穂高岳で集中登山やってみんのも楽しいんじゃないか、と思う。

（夏の沢登りとしても梅雨期には面白そうだ。もろそうだけど。）

北鎌尾根より槍ヶ岳、そして横尾尾根下降

☆期間 …'76 4/3～4/6

☆メンバー …Ⅳ△吉田克樹（人文4-Ⅳ）vol 家来 師田信人（医2-Ⅱ）

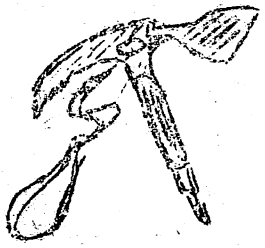
☆行動概様

4/3 ◎or.◎ 松本 大町 バス エコミスト村 8:30～蒲 9:30～湯俣 13:50
～千天出合 15:45～PⅡ取付き 16:15

当然、蒲までバスで入るものと決めこんでたバスがダム工事のため、大町からほぼ半分のとこまでしか通って居ない。いきなり予定外のアルバイトをさせられる。高瀬川沿いの山々は心なしか雪が少ない感じだ。この道を通るのもこれで2度目だが、さすがに今回は変と思って工事場も静かだ。東沢をすぎると後は湯俣まで2人で黙々と歩く。時々小雪もパラつく肌寒い天気だ。湯俣までは快晴だったけど、そっからは実に苦労させられた。なんせ、ただでさえあそこはハヤちしいとこなのに、道が崩れてたり、その上も雪でカモフラジューされたりしてんだから…。時には氷と岩の間をはいつくばってトラバースしたり、時にはモロズッコケたりしながら、それでもなんとか千天出合まではたどり着く。夏なら ここからP2取付き点まで10分か、そこらだ、てんでそれを信じて歩く。but それはせかったのだ。ひたすらキックステップの連続で、時には木の枝につままりつつトラバースしたりして、やっとの思いだった。着いた時にはもう周囲は薄暗くなりかけてた。慌てに一本格をわたり（渡った直後、もろいっくり返りく泳ってた）、そのすぐそばにツェルトを張る。明日っからの先行き不安をつのらせるかのような入山日だった。

4/4 ○→◎→① B.P. 5:50～PⅡ 6:50～北鎌のコル 10:20～独標 13:15
～北鎌平 15:45～槍Peak 17:15～肩の小屋 17:40

朝方からきれいに晴れあがった。いきなりPⅡ目指しての急な登りが続く。途中40m程の特に急なとこには、フィックスドロープが張ってあった。そろそろ息切れがしだした頃、P2に出た。ここからは硫黄、そして遠く北アの連峰が手にとるように見える。P2からP4までいさな岩峰がいくつも続く。P3へは幅1メートル位の雪壁を登り、上部では手のリッジに抜ける。このあたりからはP5、P6の2つの岩峰が威圧感的だ。P4、P5のコルから最初の難所が始まる。コルから数m程急な斜面を上沢側の斜面をトラバース（下り気味に）そして四状雪壁を30m急登してP5の岩峰を巻き、岩は斜め上にトラバース気味に登ってP5、P6のコルに出た。



ここから千丈沢側に回る。ここも足下がスパッとカレ落ちてる。フィックスロープがあるけど役に立たない。慎重に回り込んで雪壁を登った。P7から北鎌のコルへはかなりやせた急な下りだけど雪がしまってんで助かる。元気なく北鎌のコルへ出る。本当は、今日の予定はここまでだったんだけど、まだ十分時間があるので、思い切って先に進むことにする。P8へはしばらく雪稜

☆☆☆ P皿付近より見た独標 ☆☆☆

●●● …トレース（○○○は裏側）

おいにすすみ，千丈沢側に回り込む．そこからブッシュ混じりの固い雪壁を登る．雪が固く，傾斜もきつくてしんどい．ここでザックにつけてたルスコップを落としてしまった．（みんなナメンな）P8まで行くとさすがに独標がでっかく正面に見えてきた．バテ気味で眺めると精神的にダメージ大きい．千丈沢側のトラバースルートを目で追うけどよくわからない．先行してる人がた手のリッジ風に登ってる．ともかく独標基部まで行く．ガイルを初めて出す．基部の岩を千丈沢側に回り込み，5mの雪壁を登り稜部を越して天上沢側に出る．更に雪壁を10mくらい登りリッジおいに20m程すすむ．後は緩くなった斜面を急をわらしわらし登ればそこは独標のPeakだった．ここで先行party（エ）に追っつく．単独行のおっさんに今日はPII(?)何さかろだと言ったらビックリしてた．当然だよね．俺だって信じられないでいたんだから．独標を西乗っ越して初めて槍を拝を表わした．独標から20m程行ったところにヤバいZmくらいの岩がある．これはザックを吉田さんに吊り上げてもらって越す．岩稜，雪稜mix，千丈沢側を主としていたすら歩く．俺はここらあたりから，ほぼ完全にかりッキー気味になった．吉田さんはどうとう今日中に肩の小屋まで行く，とかのたまいだす．半分ヤケにもなってくる．槍までが急に絶望的な距離に思えてきた．北鎌平あたりから天気がおかしくなってきた．時々槍の穂先もガスに隠れる．ここでザイル・ザックをはずしてアップガイレンの捨て縄がある．ここでアンガイレン．スタカットでいく．ザイルは2pitch．1pitch目の最初の凹状の部分が実に悪かった．後は左手にかろめながら最後の雪壁を登ると槍頂上の神の裏にとび出た．ゆっくり休むまもなくすぐ下りに取りかかる．慎重に慎重にと足許ばっか見つめているうちにいつか肩の小屋の前についてた．やっと安心する．夕陽が日輪を伴ってきれいだった．その晩は，冬季小屋で暖たかい思いしたけど，足のみでなく，腕が何度も何度もつったのには，全く閉口した．期待してたレインジャーもダメ．たまにはこういう時もある．

4/5 ○ 7:10 槍の肩 ～ 8:45 横尾尾根天狗のコル ～ 12:50 横尾避難小屋

風は強いがうるさい快晴である．アイゼンをきかせ大喰，中岳の稜線をすすむ．南岳のPeakを手前より横尾尾根に向かう．主稜線直下しばらくはかなり急で滑もつかう．雪質も大分悪いが使う．横尾尾根は全体に両側がスパッと切れてる．横尾の岳は，それがもしP7とP8の間にあるんなら確かにそれらしきところも通過したんだけど，P6付近で見ずかろうにハヤらしそうなとこにぶつかった．ザイルだけは行けないことをなさそうだったけど，雪の状態も悪そうだったんで，手前のブッシュ混じりの浅い急なルンゼを右俣目指して下降する．途中からずっとトラバースしてP5から派生してる尾根に出る．さすがに10:00をすぎると

すごく暑くなる。雪もくさってすぐアイゼンダンゴになる。かぶち友ハだけ助かる。尾根直しに下り立ったとこは丁度右俣左俣の出合付近だった。雪崩のものすごハデブ！の上をフラフラと歩いてく。源天出合付近でれをカブカブ飲む。周囲の圧倒的な岩壁を横目に横尾へ。少し早いけど今日はそこまでとする。図書小屋はネリミだらけだった。

4/6 ⊙→㊐の㊋ 6:00横尾～8:45上高地～12:15沢渡 ㊋→新島々 ⋯ 松本

前穂東壁を見上げつつ、すべりやすい道を気をつけながらすすんでく。与重郎のたもとではしんどジャーなり、ビスケットをほおばる。大正池で穂高へ別れを告げ、除雪された道を沢渡へ。いたずら犬にマメ作りつつ歩く。雨も降ってくる。沢渡まで後200mくらいのとこで、弱体にもなりたいろわれ、島へ。これで今度の山行も終わったと思うと、気持ちよく眠れる。

前からの念願だった北鎌へ行けて、ともかく嬉しい。でも行動はシビアでえらかった。それだけに充実してたと思う。俺自身、これでやっと自分の山というのに対して1つの区切りがついたような気もするし…。春眠暁を覚えず　春うらら　寝ぼけ眼をこすりつつ…

（のぶひと）

槍ヶ岳より槍を望む

☆ 三宅島東面　5/1～5/4

メンバー　L.[illegible]　吉田、[illegible]　[illegible]

A　B

5/1 ●→◎

松本 ― 新宿 ― 田原見

7:20　13:00

駅を降りてから雪を踏み用にされ、コウウン、ゴンドラに乗りたくない登山者に子を抱られながら、[illegible]一号を曽る九平に到着より　田原見に下りを重点、H.F.で取付へα降り口を偵察に行く

5/2 ①→◎

B.C. ― G5取付 ― 終了 ― 瑞牛山頂 ―

5:00　5:45　6:00　11:30　12:30

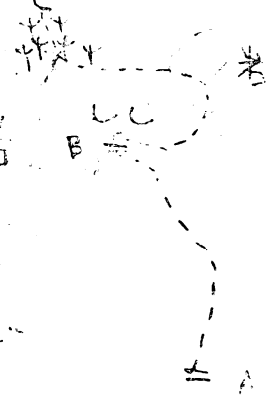
瑞牛山頂 ― B.C

1:30　2:00

この辺りのラインはまだ本格の気配がない。1ダイ エックリして2ハ[illegible]ッ[illegible]ダレとBoldになる[illegible]ト脆けて[illegible]また一生懸命登りG5に取付くトレースはなかった。途中[illegible]全く[illegible]取付と重なり[illegible]おいてハングっている所で、ザイルを5m，1ドル使用し最後、後輩に抜かれる前大きなキノコ型のところを15mアッザイレンして下を巻くようにして回ん[illegible]（いやらしかった[illegible]）そこから後輩まかせG5の取付[illegible]といえば聞こ聞こえてきて、[illegible]東く傾斜がきつくスタンスホールドなくとくずれこわかった。

[illegible]に戻ると図のところまで行き そこで後輩、Aから[illegible]ザイルをつけてMがBに行きAB間ザイルドルし、FがCまで行き B.C間が雪と岩が混り東メ[illegible]見ると G5に[illegible]取付 112ポとしは[ウ[illegible]ストップを使い]

[illegible]ゆっくりと[illegible]で[illegible]



[illegible]

5/3 ◎

B.C. — G2[illegible] — G2[illegible]
5:10 [illegible] 9:15
15:00 (A B.に[illegible])

Aparty
[illegible] — [illegible] — [illegible]

Bparty
[illegible] — [illegible]
10:[illegible] 11:20

[illegible] 使用する[illegible]
[illegible] 不[illegible]
[illegible] 高度を[illegible] ガレた見晴らしの[illegible]
[illegible] ガレ[illegible] 稜線へ出る [illegible]
[illegible] A.Bパーティは[illegible] Aparty は[illegible]
[illegible] 切[illegible]へ下く Bparty は[illegible]
[illegible] 北壁へ[illegible]

5/4 ●→◎

Aparty
[illegible]小屋 — [illegible] — [illegible] — 大谷原 — [illegible]
— [illegible]

Bparty
B.C. — [illegible]
6:00 9:00

Aparty は[illegible]が悪いので北壁を断念し[illegible]

★ 雪が少なかったので G2 は つまらなかった